

木田市長の



ど〜んと

真珠のように輝く
まちづくりのために

コミュニケーション

vol.41

世界的経済危機

地震に襲われたとき、わたしたちは非常に驚きます。

それは動くはずがないと思っている大地が動くからです。乗っている小舟が揺れても人は驚きません。

昨年世界中を襲った経済危機も、アメリカのビッグスリーが破綻状態に陥ったり、トヨタ自動車が赤字に転落するなど、あるはずがないと思われていたことが起こったため、世界中の人たちが驚いたと言えると思います。

そのような経済危機の中、派遣労働者のみなさんが、景気が悪くなった途端に解雇されたり、住むところを追い出されたりして、大きな問題となっっています。

そんなニュースが溢れる中、ある市民のかたが、わた

しに次のような提案をしてくださいました。

「わが家は民宿をしていたので、部屋が多くあります。この部屋を無料で困っている人たちのために解放したいと思います」というものでした。たいへんありがたい申し出でしたが、そこで、はたと考えさせられてしまいました。

このような親切な心で見ず知らずの人たちを受け入れようという人がいる反面、今まで安い賃金で働かせてもっていた企業が、仕事がなくなくなったからといって首にするばかりか、そのあと入居する予定もない寮から即座に追い出すという現在の社会の在り方に疑問を持ちました。

中には何千億円、何兆円という多大な内部留保金をため

こんだ会社もあるわけです。本当に弱い人たちを切り捨てれば、その人たちの消費、購買力はなくなります。

その影響によって、もう少し生活力が強い人たちの収入や売り上げが落ち込みます。

そういった負の連鎖により、ついには車や電化製品などが売れなくなつて、首切りをした会社へ付けが回つてくるのではないのでしょうか。

苦しいときは、みんなが少しずつ我慢をして、助け合うことが必要です。

自分だけが良ければいい、自分だけが生き残ればいいというのでは、社会生活をする人間として、とても恥ずかしいことだと思えます。

みんなの力でこの不況を乗り越えたいものです。

鳥羽市には、三重県の北勢地方の市町のような大きな影響は、今のところありません。

しかし、大なり小なり影響はありますし、今後じわじわと効いてくる心配もあります。

行政と市民とが一体となつて今後、景気回復に向けて頑張っていかなければなりません。

夢

人権文化の花を咲かせよう

Vol.81

この詩は、隣市に住む、ある女性の作品です。以下は彼女のいとこから伺った、彼女の生い立ちです。

彼女は、生まれたときからの病気のため、自分の意志で自分の体を自由に動かすことができず、一日中寝ている体勢を取り続けて生活しました。

彼女は、手で鉛筆を持って書くことはできませんでしたが、話すことはできましたが、不明瞭で聞き取りにくい場合がありました。そんな彼女が自分の気持ちを伝える方法として、ワープロを選択しました。

口で棒をくわえて、歯がぼろぼろになるほど、ありつたけのエネルギーで、一字一字入力したそうです。

代筆を拒み、自分の心の叫びを丁寧に、大切にされた彼女の作品は、ほかにも多く残されています。

彼女は、45歳でその生涯を全うしました。

私の夢は「電動車椅子をマスターすること」

最初は失敗するけれど成功すると嬉しい

それが

私の大きな夢

もしも夢が叶うなら

手 足となつて

走りたい

私の手は車椅子

どこまでも 走りたい

「ゆけ！ 車椅子 私を乗せてつつ走れー！」

